

2025 年度 MBA 鈴木ゼミ シラバス

- 目的① 組織行動論、組織論、経営管理論の考え方について理解をすること
- 目的② 論文作成の基本的知識（方法論や論文の考え方など）を修得すること
- 目的③ MBA 論文のリサーチプロポーザルを作成すること

演習では専門職学位論文の論文指導を行います。組織行動論、経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、キャリア論といった組織における人に関わる領域に関するテーマを扱います。組織の中の「人」に焦点をおいたテーマを扱います。ただし人に焦点を当てるものの、常に組織（企業や職場）と個人、組織（企業や職場）の中の個人といった関係の中から検討をします。また専門職学位論文の作成を通じて、具体的な経営現象を科学的に把握、分析、検討するスキルを身につけることも目指します。

学位論文はゼミで言われたことをすれば完成するものではありません。ゼミでのコメントや議論を踏まえて、自分でマネジメントする意識を常にもってください。

ゼミの考え方

良いリサーチコミュニティ（ゼミ）から良い研究は生まれますし、良い研究を個々人が志さなければ良いリサーチコミュニティ（ゼミ）は成り立ちません。自分の研究だけに関心を持つのではなく、他のメンバーの研究にも強い関心をもってほしいと思います。他の人が研究していることや考えていることから新たな知識を得ることは少なくありません。また、良いアイデアは必ず活発な議論の場から生まれます。ゼミは共通の関心をもった人々の集団です。ぜひゼミ中、オフライン、オンラインで活発な議論をしましょう。

今期は秋から冬にかけてゼミのない期間が長くあります。ゼミとゼミの間の時間でも論文を少しずつでも進めるようにしてください。Discord や Google Document などを使って議論が途切れずできればと思っています。

事前課題について（※重要）

事前課題をこなしていれば良いと思わないようにしてください。事前課題はあくまで研究を進める思考を手助けするためのものです。受動的ではなく、それ

ぞれの事前課題フォーマットを足がかりに自分の研究を考える、進めるという姿勢で行なってください。前期の目標は MBA 論文のリサーチプロポーザルを作成することです。

必読書籍（購入して読み進めていってください）

リサーチの考え方に関する書籍

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」東洋経済新報社（2021 年）

Reading2 W. C. ブース他「リサーチの技法」ソシム（2018 年）

Reading3 須田敏子「マネジメント研究への招待」中央経済社（2019 年）

神戸大学 MBA「プレ MBA の知的武装」中央経済社（2021 年）

経営組織論・組織行動に関する書籍

鈴木竜太・服部泰宏「組織行動」有斐閣（2019 年）

鈴木竜太「経営組織論」東洋経済（2018 年）

そのほか参考文献（こちらはよりしっかり学びたい人用です）

【研究方法や考え方をしっかりと理解したい人】

浦上昌則・脇田貴文「心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方」東京書籍（2008 年）

佐藤健二「現代社会学ライブラリー18 論文の書き方」弘文堂（2014 年）

M. アルベッソン・J. サンドバーグ「面白くて刺激的な論文のためのリサーチクエスションの作り方と育て方」（2023 年）

青嶋矢一編著「質の高い研究論文の書き方」白桃書房

【より特定の分野について知りたい人（これ以外にもあります）】

船越多枝「インクルージョン・マネジメント」白桃書房（2021 年）

高尾義明・森永雄太編著「ジョブ・クラフティング」白桃書房（2023 年）

金井壽宏「働くひとのためのキャリア・デザイン」PHP 新書（2002 年）

鈴木竜太他編「1からのキャリア・マネジメント」碩学社（2023 年）

佐藤博樹編著 シリーズダイバーシティ経営 中央経済社

組織学会編「組織論レビュー I・II・III・IV」など

スケジュール

各回の内容と事前課題です。事前課題をこなしていくだけでなく、セッションとセッションの間の時間についても（テーマ P など忙しいとは思いますが）少しずつでも進めるようにしてください。

また過去の MBA 論文執筆者をお呼びして、ご自身の MBA 論文について概説してもらう予定です。研究のプロセスや MBA 論文ならではの注意点など研究内容とともに参考にするようにしてください。

なお、Day2 の日は在外出張中のため私が不在になりますので、2-3 月に追加のゼミを予定しております（日程については Day1 で相談）。

【Day 1 (Session 1-5: 9/13) イントロダクションとポスターセッション】

最初のセッションでは、自己紹介をかねて研究テーマを話してもらいます。その後、研究の始め方について議論をします。午後はポスターセッションへの参加となります。

【事前課題】

リーディング課題を読んだ上で、Appendix#1 のフォーマットに沿って研究テーマを説明できるようにまとめてきてください。当日の話す時間は 5 分以内です。コンパクトに。（A4 1 枚程度で用意 *口頭で説明することも含め、資料は簡潔に作成すること）

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.1・2

Reading2 ウェイン・C・ブース他「リサーチの技法」のパート I

Day1 から Day2 の間

この時期は研究動機や大まかな研究テーマからよりフォーカスを絞っていく時期になります。またその際にどういう切り口が有効かということを考えていきます。Reading1-3 を再び読み、そのステップを理解するとともに、経営組織論や組織行動論のテキストなどから切り口のアイデアを考えて Day2 の課題に取り組んでください。

また自社の課題や問題を取り上げる場合には、その問題や課題について実際にどのようなになっているのか、資料やデータ、できればインタビューなど行って、その課題や問題を改めて理解（何が起きているのか）をするようにしてく

ださい。

【Day 2 (Session 6-10: 10/11)】 研究テーマの洗練

この日は、私が在外研究でヨーロッパに滞在中になりますので私不在で進めてもらう予定¹です。このセッションでは、文献や理論の読み方、序盤での考え方について MBAOB の今井さんからレクチャーをしてもらいます。アップした事前課題についてはコメントをつけること対応します。

【ゲスト】(未定)

【事前課題】

事前 Reading における問題のフレーミングを参考に、自身の問い（あるいは研究テーマ）を今一度考えてみてください。

【リーディング課題】

Reading2 ウェイン・C・ブース他「リサーチの技法」ソシム（2018 年）のパート II

事前 Reading トーマス・ウェデル＝ウェデルスボルグ「そもそも解決すべきは本当にその問題なのか」HBR, 2018, 2 月号. (こちらは BEEF 経由で配布します)

Day2 から Day3 の間

この時期は、研究テーマから研究課題へと絞っていく段階です。その中で研究計画を徐々に立てていきます。今期はこの間がおよそ 2 ヶ月半あります。次の 2 つの点を進めながら考えていってください。

- ② 研究テーマの対象の情報を集め、新たな情報から考える（パイロット調査）
- ② 切り口として有効なコンセプトやフレームワークを引き続き探す（文献渉猟）

【Day 3 (Session 11-15: 12/6)】 研究計画の策定と研究方法

各自この頃には研究テーマが決まってほしいと考えています。その上で、実際の研究が 2026 年度からスタートすると考えてください。2025 年度最後の 2 回+1 回(10 月振替分)はリサーチプロポーザルを完成させることを目指します。

¹ この日は午前で終わっても結構です。2-3 月に振替の補講を行う予定（要相談）です。もし午後の要望（例えばゲストを呼んで欲しいなど）があれば検討します。

これまでのセッションを振り返りながら、リサーチプロポーザルを作成してください。

このセッションの後半では、方法論についてレクチャーをします。

【ゲスト】未定

【事前課題】

Appendix#3 をもとにリサーチプロポーザルを作成してください。このプロポーザルをもとに議論をしますので、適当に書かず、進捗を含めしっかりと考えた上で書くようにしてください。特に「2 参考にする理論や概念」のところを充実してくるようになっています。ただし充実させるだけに終わらず、それを踏まえて今一度研究テーマと課題を考えるようにしてください。

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.3-5

Reading3 須田敏子「マネジメント研究への招待」

【Day 4 (Session 16-20: 2/14-15?)】

今年度最後のゼミでは、リサーチプロポーザルの完成を目指します。ここでリサーチプロポーザルが完成するのが今年度の目標となります。Day3 での議論を元に、リサーチプロポーザルの完成版を目指してください。このゼミ以降はこのリサーチプロポーザルをもとに研究を進めていくことになります。

【事前課題】

Appendix#2 のフォーマットをもとにしてリサーチプロポーザルを作成、ブラッシュアップしてください。

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.6-8

Appendix

#1: Day1 の事前課題フォーマット

①研究テーマ

「〇〇〇に関する研究」といった形でテーマをさっと理解できるように記述する

②研究動機

自分のこのテーマに対するモチベーションがどこから来るのか記述してください。

（考えるポイント）どうしてその研究テーマに関心があるのか、それは自組織の具体的な課題にどう繋がっていて、どうしてそのテーマを研究することが（他のテーマよりも）大事か。

#2: Day2 の事前課題フォーマット

①研究テーマ

Day1 の時の研究テーマよりももう少し焦点を絞って考えてみましょう

②研究動機と背景

研究テーマの背景にある実践的な課題について実際の現状について考え、課題が他にもいくつかある中で、このテーマ（課題）を選んだ動機を考えてください。

（例えば、ある実践的な課題を解決するために組織文化に関わるテーマを選んでいる場合には、なぜ組織文化に着目するのか、他の概念や着目点ではダメな理由も考えてみてください）

また背景については、自分の経験的な知識だけでなく、実際にどのようになっているのか自社や自職場のデータや状況を改めて収集し分析し、考えてみてください。自分が問題ではないかと思っていた部分が他の人には違って見えていることは少なくありません。

その上で、自分がなんとかしたいと考えている対象（自社や自職場、働き手）はどのような特徴を持っているのか、考えてみてください。

③リサーチクエスション

Reading1 や課題 Reading など参考に自分の研究テーマ、動機、背景において勘の良いリサーチクエスションとは何か考え、仮で結構なのでリサーチクエスションを考えてみてください。クエスションですので疑問形で書くこと。

#3: Day3/4 の事前課題フォーマット（リサーチプロポーザル）

1 研究テーマと背景²

改めて、自身のテーマを1行程度で書いてください。その上で、このテーマのもと、この論文でなにを（明らかに）しようとしているのかについて書いてください。

※考えるべきポイント

- ・ どうしてその研究テーマに関心があるのか？（問題意識）
- ・ どうしてそのテーマが（他のテーマと比べてより）意義があると考えなのか？（自分にとって、会社にとって）

2 参考にする理論や概念³

どのような理論的視角・視点から研究課題にアプローチするか、具体的な概念や研究領域について、下記のポイントから読んだ論文や本をまとめながら書いてください。ここを整理してまとめておくと後で楽です。

※考えるべきポイント

- ・ その理論や概念はなぜこの問いにとって有効か？
- ・ その理論や概念ではこれまでどういったことがわかっているのか？そしてわかっていないのか
- ・ 他に見込みがありそうな理論や概念は何か？

3 研究上の問い⁴

1、2を踏まえて、MBA論文におけるリサーチクエスション（研究上の問い）となぜその問いが簡単にわからないのか、じっくり腰を据えて考える必要があるのか、そして改めてなぜその問いに答えを得ることが問題意識や実践的な問題の解決につながるのかを記述してください。

※考えるべきポイント

- ・ 研究上の問いは問題意識から生まれる素朴な疑問とは異なります。研究上の概念を用いて言い換えながら、（会社名など具体的ではなく）一般的な表現で問

² Day4 では1ページ程度文章で書いてください

³ Day4 では、具体的に調べたこと読んだ文献について下記の点をもとに文章で数ページ書くようにしてください

⁴ Day4 では1ページ程度文章で書いてください

いを設定しましょう。

4 調査方法

3 を明らかにするために、どのような調査対象に対して、どのような方法で調査をしようと考えているかを下記のポイントを含んで書いてください。

※考えるべきポイント

- ・その調査方法はなぜこの問い、研究にとって有効か？
- ・そこでどんなデータを得ようと思うか、そのデータがあるとどうして問いに答えられるのか
- ・データの入手可能性はどうか？

4 予想される結論（仮説）

3 の答えとして、どのようなものを想定しているか、仮説の形で示してください。その答えは自分がほしい答えでしょうか。1 年間がんばった後、その仮説が正しいらしいとなった時に、もしこういうことが言えるのであればやった甲斐があると思える仮説の姿を考えましょう。

※考えるべきポイント

- どんな答え（結論）をイメージしているか？
- その答え（結論）は問いに対応しているか？
- その結論は 1.2 において意味ある結論か？

5 今後の研究計画

次の報告までに行う To Do を記してください。Day4 では、完成までを見越した計画を立てるようにしてください。